

(2) 地神様 (じじんさま)

富山学区には、倉安川沿いに五神の名が刻まれた「地神様」が建立されている。(写真・地図参照)

五神の名	
・天照大神	あまたらすおおみかみ — 神々の最高神、五穀の祖神。
・倉稻魂命	うかのみたまのみこと — 食物の神様で、特に稻の靈。
	(あるいは五行神 金山彦命)
・埴安媛(姫)命	はにやすひめのみこと — 土の神様
・大己貴命	おおなむちのみこと — 国土造成の神であり、農耕の神。
・少彦名命	すくなひこなのみこと — 国土造成の神、農耕の神、大己貴命と一対



③丸端の地神様

「なぜ五角柱?」については、「岡山県史」第15巻民俗1「第4節地神と塞の神」に、「陰陽道(易)の五行思想(木・火・土・金・水)か、密教(修験者等)地・水・火・風・空の五大、五輪の思想、またはその両方を配慮した五の観念が強く支配したものと思われる」と記述している。



地神様は、北海道、埼玉、兵庫(淡路島)、岡山、広島、島根、香川、徳島等広く全国規模で分布している。石川博司「地神塔の全国分布」(「日本の石仏第21号」) 参照

地神塔の全国分布



地神様の社日と形態

札幌大学名誉教授梅原達治氏の研究によると、五角柱地神碑建立は天明年間に著された**大江匡彌**（ただすけ）（寛政7年没）の「神仙靈章春秋社日醮儀」の影響によるとしている。その「春秋社日醮儀」によると地神様の祭日である「社日」について「1年に2度、五穀の祖神、守護神、土の祖神の神恩を報する為に祭祀をなすべし。其の祭祀をなす日ハ、毎年春2月の社日と秋8月の社日（中略）此の社日に右の祭をすれば、五穀成熟、萬穀豊饒にして、天下泰平、国家安寧、家内繁昌、夫婦和合し、子孫長久、金銀米錢倉廩に充満し、無病息災、寿命永長なるべし」と記述されている。

そして、「夫社を立て祭を行わんと欲ハバ、先其国所の村里に於て、田畔又は路傍の清浄なる土地を選びて、石或ハ土を用いて壇壝を立て、壇壝とハ即壇をいふ。(中略)兼ねて石を五角に切て碑の如くし、此石に即五神の神名を記し彫附て、是を立置べし」と五角柱石碑(地神様)の建立方法を記し、かつその図を明示している。右図「本朝社之図」参照



富山公民館ホームページにある「富山の文化遺産」の「地神様」には、「地神様は農地に宿り、農作物（米・麦・粟・きび・豆）などを豊かに実らせてくださる神様です。農業に励む人々が、災

い無く豊作を願う心の証と考えられます。また、春や秋の社日（春分の日・秋分の日に最も近い戌の日。農家ではこの日をめやすにして、春は種をまき、秋は稻刈りをする大切な節目の日）には、しめ縄をしてお神酒やお餅などを供えてまつります。」と記されている。

富山学区の地神様社日は、各地区農家が現在（平成26年）に引き継ぎ色々な形で継承している。（各町内の地神様参照）

地神様建立の時期と背景

富山学区の地神様建立の背景は、江戸時代の後期になり天保の大飢饉（下図参照）疫病等幾多の災害と米中心社会の崩壊（織物・醸造等の商工業の浸透）等々で農家の人が田畠を捨て去るような疲弊した農村の復興を図るため、天照大神をはじめ土の神・農耕の神を五角柱に刻んで建立しお祀りしたと推測される。

地神様の建立は、天明期（1781年～）から始まり、天保期（1830年～）に最大になり幕末の慶應（1843～1844年）を経て大正時代まで継続している。

旭操学区倉益にある天保4年（1833年）に建立された地神様（右の写真参照）は里正（庄屋）日笠豊展が村人に命じて建立させたと台座に記録されていてこれを裏付けている。

富山学区の地神様の建立時期は、台座に刻まれていない石碑が多いが、古くは、嘉永7年（福泊）から明治3年（出村）新しい物で大正5年（山崎）の記録がある。が、必ずしもそれが地神様の建立時期とはならない。移設したり、改修したりした年である場合もある。

いずれにしても富山学区の地神様も江戸時代後期から明治・大正にかけて、農村の繁栄を願って建立されたと考えられる。

以上富山学区の記述以外はほとんど（「岡山の地神様-五角形の大地の神」正富博行著）より引用させて頂いている。

